発行：徳之島町誌編纂室

徳之島町 町誌編さん だより

（徳之島町内全戸配布）　第 15号　2022. 3. 10

町史刊行は本町ソフト事業の最たるもの

徳之島町 副町長　　幸 野 善 治

昨年の９月、地元紙のコラムに奄美群島の各市町村で発刊されている市町村誌の活用方法が掲載されていた。ほとんどの市町村誌が百科事典か専門書のような装いで、一般町民には親しみにくいような感じがするというようなものだった。一般町民はもちろんのこと、役場職員でさえ開いて見たことがあるだろうかと問いかけられていた。

役場職員が町誌を読み、自分たちの町を「知る」→「興味を抱く」→「好きになる」→「誇りを持つ」→「魅力や深みを伝える」→「人が育つ」→「町が育つ」という手順を確立する。この手順を確立して職員の奮起を促し、町おこしに繋げてもらいたいという示唆に富んだものだった。その為にも親しみやすい読まれる町誌が待たれる。

現在手掛けている町史は４編からなり、昨年１１月に自然編・今年３月に民俗編・来年３月に通史編・令和５年度には一般町民や小中学生にも親しみやすい簡易版を発刊する予定である。

現在の町誌は、徳之島町と旧東天城村が合併して 10 年になったのを機に昭和 45年３月に刊行された。この合併 10 周年は明治 100 年に当たる年でもあった。編集担当の水野　修氏（故人・当時企画課主幹）や郷土史家の徳富重成氏（故人）・松山光秀氏（故人）から責任の重大さと相当の苦労があったと聞かされた。

今から 13 年前、現高岡町長が誕生して間もない頃、企画課長だった私はためらうことなく町誌をつくってみませんか、と提言したことがある。町誌を発刊してから約 30 年の年月が過ぎ、昭和 40 年代以降の追録版を出すにはちょうど良い時期と判断したのである。町長と当時の総務課長は意欲満々であったが、財政状況や準備の段階を考えて断念した経緯がある。

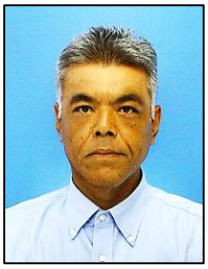
その後、私が６年前副町長に就任した時、町長の考えは当時と変わることなく町誌編さんをソフト事業の最たるものと位置付け、政策の一環として取り組むこととなった。そこで追録版でなく、本格的な町誌を刊行するため、約２年間、各市町村や関係団体の情報収集や調査・研究から始め、ようやく平成 30 年４月に町誌編纂室を立ち上げ現在に至っている。

第１回の町誌編纂審議会では約半世紀過ぎた現在、考古学や民俗・地学・生物学上で新たな発見等があり、今までの知見を見直す時期になっているとの報告もあった。また旧町誌の見直しと共に写真を多く取り入れ、文字を大きくし、一般町民や小中学生にも理解できる工夫が必要との要望もあった。

現在、編集室の陣容は青森県史の編纂に携わった大村達郎（伊仙町面縄出身）・長年高校教諭や町立図書館長として実績のある岩下洋一（徳之島町亀津出身）・前郷土資料館長として郷土史に詳しい米田博久（天城町岡前出身）・昨年配属された編纂室長の竹原祐樹（徳之島町山出身）・筆耕で紅一点の尚　典子（徳之島町母間出身）の５人体制である。また執筆陣は奄美・琉球の歴史や地学・生物に詳しい大学教授、元教諭や郷土史家等多士済々（既刊の「町誌編纂だより」で紹介済み）である。

約半世紀ぶりに刊行される徳之島町史は、大島郡はもちろん鹿児島県下でも注目されるソフト事業の最たるものになってもらいたいものである。

編さん室からの追悼文



去る一月に本室専門員の大村達郎氏が急逝されました。突然のことであり、本室一同言葉を失いましたが、本紙面をお借りし、あらためて大村氏への追悼を申し上げたいと思います。

大村氏は、東洋大学大学院で国文学・民俗学を修められ、長く東京都や青森県などで文化財保護・自治体誌編さんに尽力されてきました。

平成 27 年からは、ルーツである徳之島に居を移され、『兼久採集手帖』などの編集・刊行に携わられました。平成 30 年からは本町の町誌編さん事業にもご参画いただき、町誌叢書の編集・刊行など、そのお力を随所に発揮していただきました。

大村氏との日々の業務・語らいの中でご教示いただいたことに、「徳之島の郷土研究史」と「詩と民俗」の探求があります。大村氏がどのような構想を描いておられたか、伺うすべはなくなってしまいましたが、今後の探求を待っている問いとして記録しておきたいと思います。

最後になりましたが、大村氏のご冥福をお祈り申し上げ、追悼のことばといたします。

町誌編さん事業日誌（抄）

年	月　日	内　　容
令和3年	11 月 13 日	先史・古代・中世部会 web 会議開催。
	11 月～	『徳之島町史』民俗編　入稿・校正作業
	12 月末	『恵みの島 ―徳之島町史・自然編』刊行記念特別価格　販売終了

今後の町誌編さん事業予定。

年	月　日	内　　容
令和４年	２月末	『徳之島町史』通史編　原稿締め切り。
	３月中旬	徳之島町誌編さん審議会開催予定。 先史・古代・中世、近世、近現代各部会開催予定
	３月末	『シマの記憶 ―徳之島町史・民俗編』納品予定
	４月１日	『シマの記憶 ―徳之島町史・民俗編』の刊行記念特別価格 販売開始（5 月末までの期間限定）

※ 「町誌編さん室・資料館の “島のむんがたり”」を『広報 徳之島』に連載中 ！

令和３年　11 月号　第 12 回　「【特別寄稿】50 年前のファッション事情」（令和３年度博物館実習生　廣尾ゆりか）
12 月号　第 13 回　「徳之島出身者から発せられた知られざる『奄美日本復帰の第一声』（１）」（岩下洋一）
令和４年　１月号　第 14 回　「集落内の通信手段・非常時のサンテンショウ（三点鐘）」（大村達郎）
２月号　第 15 回　「シマ（集落）の記憶と記録」（竹原祐樹）
３月号　第 16 回　「花時名（けどきな）にあった宝迫鉱山（ふうらくこうざん）」」（米田博久）

徳之島町　町誌編さんだより　第 15 号
〒891－7101　鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918 徳之島町生涯学習センター3 階（徳之島町郷土資料館内）
電話番号：０９９７－８２－２９０８
徳之島町誌編纂室

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂（へんさん）」の表記を使用しています。
本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。なにとぞご了承ください。
※ 徳之島町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。

『徳之島町史 民俗編 ―島の記憶―』の紹介

町の全ての集落“まるごと事典” 昔の生活の場や賑わい、現在の様子について解説し、多くの写真とともに紹介しています 。徳之島島内限定 1,500 冊を島内特価（出身者も）3,000 円（税込み）で販売！